

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって自分の思いが伝わるように話したり、話し手の思いを汲み取りながら聴いたりすることに課題がある。 ・授業の中で、意味が分からない言葉や慣用語があると、すぐに国語辞典を用いて調べる児童が増え、語彙の広がりにつながった。 ・物語文の場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を読み取ることが苦手な児童が見られる。 ・構成や順序を考えて、伝えたいことが伝わるように工夫して文章を書くことができる児童が増えた。 ・新出漢字の習得に個人差があり、既習の漢字を使って文章を書くことが定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に目的意識やポイントを確認してから活動し、事後に「話す・聴く」両観点から振り返りを行うことで、自分の良さや課題をつかめるようにする。 ・引き続き、国語辞典をすぐに取り出せる環境に配置しておく。何度も国語辞典を引くことで、早く正確に引けるように習慣付ける。 ・場面の移り変わりや展開に応じた行動の違いに印や線を引き、文に沿って読むことを繰り返す。また、気持ちを読み取る手掛かりとなる会話文、情景を表す文、行動文などに着目させる。 ・引き続き、様々な形態の文章に触れたり、組み立てメモを基に書く活動を取り入れたりして、書くことを習慣化していく。書いたものを友達と読み合い、よい所を見付ける。 ・けやきタイム等を活用して、間違えやすい漢字を抽出し、小テストを繰り返す。 ・自主学习ノートなどで苦手な漢字を家庭でも復習するよう習慣付ける。 	<p>△相手意識をもって、「話す・聴く」ことにはまだまだ課題がある。事前指導や事後の振り返りを継続し、加えて他者評価も取り入れながら良さや課題をつかめるようにする。</p> <p>○国語辞典を引く機会を意図的に設けたことで、言葉の意味を知る楽しさや語彙を広げるにつながった。</p> <p>△気持ちを読み取る文章が直接的な表現だけではなく、行動文や情景文にもあることに着目させ、文章を手掛かりに考えることを行ってきたが、個人差が大きい。動作化したりセンテンスカードを活用したりして、視覚的にも分かるようにした。今後も継続していく。</p> <p>○順序立てて書くことや、主語を明確にするなど書く時のポイントを提示したり、書いたものを友達と交流したりしたことで、読み手に伝わる文章を書く意識ができてきた。</p> <p>△漢字の習得は個人差がある。自分に合った学習方法を身に付け、家庭学習でも取り組むよう支援していく。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての社会科の学習に、意欲的に取り組むことができた児童が多い。自分が住む文京区に興味をもち、地形や交通など経験と結び付けながら、調べ学習を進めることができた。 ・地図や写真などの資料から情報を適切に読み取り、考える力が必要である。 ・情報の整理の仕方や、調べたことを絵地図・新聞などに表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生活の中に生かす場面を意図的に設け、地域に更に興味をもてるようにする。児童の自主学习ノートや社会のノートを紹介し、調べ方や調べたことを共有する。 ・資料を読む活動を多く取り入れ、資料の見方を指導する。また、ICT機器を活用して、効果的に捉えさせる。 ・児童が興味をもって学習に取り組めるような資料の精選、提示の工夫を考える。 ・ペアや少人数で分かったことや考えたことを伝え合う時間を設ける。整理されたノートや新聞などをポイントと併せて紹介し、参考にするよう促す。 	<p>○生活と学習が結び付き、自分事になるような課題の設定をしたことで、課題解決のために意欲的に取り組むことができた児童が多かった。</p> <p>○資料を数パターン用意し、児童の実態に合わせて配布したり選択させたりしたことで、どの児童も必要な情報を捉えやすくなった。</p> <p>△情報の整理、そこから分かったことや自分の考えなどを表現する活動では、個人差が見られた。引き続き、ペアや少人数での伝え合いを行い、他教科でも意図的に指導を重ねる。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方自体は理解しているが計算ミスをしてしまう児童が多い。 ・理解度に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中式や計算の過程を書いて問題を解くことが習慣化できるように声掛けをする。 ・児童同士で教え合いの時間を設けるなど、理解度に合っ 	<p>○計算の過程を丁寧に書きながら確実に問題を解いて、学習が定着した児童がいた。</p> <p>△見直しの習慣が付いていない児童が一定数い</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすくノートにまとめる力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> た学習活動を行えるように指導を工夫する。 図や数直線を用いて説明を書くよう促す。また、友達と考えを発表し合ったり、ノートを見せ合ったりする機会を多く設け、考えや説明の仕方を学び合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> る。声掛けを続けていく。 ○言葉だけでなく、図や式を用いて分かりやすくノートに考えをまとめる児童が増えた。 ○友達と意見を交流する中で、別の計算の仕方や説明の仕方を捉えながら学習を進め、学習を広げる児童が増えた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察に意欲的に取り組んでいる。 身近な出来事と結び付けて考えることができている。 観察対象を細かく観察して表現することに苦手意識があり、記録を書く活動に時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題把握→予想→実験・観察→結果→考察を基本とし、児童が見通しをもって活動したり、実験の内容について考えたりできるようにする。 児童にとって身近な事象を提示したり、実体験を話し合わせたりする活動を継続し、日常生活に基づいた学習問題を設定できるようにする。 観察の視点を具体的に提示し、児童が記録を書きやすいようワークシートやノートの書き方の指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活での経験を想起させながら学習を進めたことで、実験や事象に対する関心が高まった。他の実験ではどうなるかなど、積極的に考える姿勢が見られた。 △自然との関わりが少ない児童が多い。季節の変化に触れるような機会を増やしていく。 ○表やグラフを用いて、観察や実験の結果を簡潔に記録できる児童が増えた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーへの興味・関心をもって学習に取り組み、音色や奏法に親しんでいる。正しい奏法の定着の様子を個別に把握しながら指導を続ける必要がある。 明るい声で楽しく歌うことができる。旋律の音の動きを感じ取って歌う学習を増やし、特徴の理解に繋げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 短い言葉での指示を続け、準備をルーティーンにして習慣付くようにし、ちょうどよい息遣いや姿勢の保持で吹けるようにする。舌の動きだけを確認する時間を設けるなど、ポイントを明確にした学習で奏法の定着を図り続ける。 安心して歌える学習環境を整え続け、よい姿勢でのびのびと声を出すように促す。旋律を歌う時間と聴き取る時間を設け、旋律の動きを感じ取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備や姿勢を整える合い言葉が定着し、姿勢を保持して吹ける児童が増えた。 ○タンギングの正しい吹き方を理解し、聞き分けることもできるようになってきた。 △ちょうどよい息遣いは、引き続き個別に様子を把握しながら学習を続けていく必要がある。 ○自然と身体をまっすぐにし、明るい歌声が響き続けた。 △旋律の動きを感じ取りやすくするために、手を動かす等の聴き方を工夫し、今後も定着を図る必要がある。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞で自分の作品や友達の良い作品の良さを見付けることが難しい児童がいる。 作品の完成を急ぐあまり、仕上げが雑になることがある。 身近な自然や、建物や文房具などの人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が率先して作品のよい部分を伝え、児童に鑑賞するポイントをつかませる。 作例や見本を書画カメラで分かりやすく示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 身近な自然物や、建物や文房具などの人工物を観察したり、触ったりする活動を取り入れた題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞で自分や友達の良い作品を見合う機会を増やしたことで、作品や表現方法の良さを見付けようとする姿勢が身に付いてきた。 △表現方法を工夫して制作することができるようになったが、丁寧に欠ける部分も見られた。丁寧さが作品の完成度に大きく関わっていることを、見本を多く提示することで気付かせるようにする。 ○造形遊びなどで身近な材料で体全体を使って表現する経験ができた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動に対して、「上手にできるように 	<ul style="list-style-type: none"> 教師からだけでなく、児童同士でも肯定的な声掛けをし 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の技や動きを見てよいところやアドバイ

	<p>なりたい」と意欲をもって体を動かしている児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの作戦を考えたり友達のよい動きを見付けたりして表現している。 ・技能に自信がなく、消極的になってしまう児童がいる。 ・ゲームで勝敗にこだわってしまう児童がいる。 	<p>合えるよう、言葉掛けを例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートを活用し、学習の気付きや思考を記録し、振り返ることができるようにする。次時に紹介し、課題等を共有する。 ・段階別の課題を提示したり、チーム内での役割をもたせたりして、安心して参加できる環境をつくる。 ・相手の立場に立って考えることや、礼儀の大切さを考えることを促す。 	<p>スを伝え合いながら意欲的に取り組むことで、あたたかい声掛けが増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを活用し、動画で自分の動きを確認するなどしながら、主体的に学習を進める児童が増えた。 △体育ノートには多くの振り返りを書ける一方で、何を書けばよいのか迷ってしまう児童がいた。実態に合わせてワークシートやタブレットでの振り返りを活用していく。 ○段階別の課題を提示したことで、児童が自身の課題に応じてスモールステップで取り組み、技能の向上が見られた。 △運動に熱中する一方で、勝敗にこだわりすぎて自分本位になってしまう児童がいる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の登場人物の出来事を、自分事として捉え、真剣に考えることができる児童が多い。 ・自分の考えや思いがあるのに、自信がもてず発言できない児童がいる。 ・自分自身の生活を振り返ることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技を取り入れたり、自分だったらどうするかを考えたりしながら、よりねらいに迫ることができるような手立てを意図的に取り入れていく。 ・ペアでの話し合い活動を取り入れたり、ICTを活用したりして、児童同士で気軽に発言し合えるような授業づくりを行う。 ・自分自身の生活を振り返る時間を十分に取ったり、机間指導の際に個別に支援をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> △ICTを活用する機会が少なかった。児童の率直な意見を引き出し、話し合いが活性化するような活用機会を増やしていく。 ○ペアでの話し合いを多く取り入れたことで、自分の素直な気持ちを友達と伝え合うことに慣れてきた。 △自分自身の生活を振り返ることに対しては、個人差が大きい。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習をすすめることを楽しんでいる。 ・タブレットの扱いに個人差が大きく、調べたい情報にアクセスできない児童がいる。 ・調べた内容から情報を精選してまとめることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって主体的に調べ学習を進められるような学習問題の設定を引き続き行う。 ・総合的な学習以外でも積極的にタブレットを活用し、慣れさせる。 ・要点をしぼってまとめられるよう、国語での学習と結び付けながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文京区の偉人や名所など身近な題材を取り扱ったことから、児童が終始興味や関心を強くもったまま調べ学習を行うことができた。調べ方やまとめ方も少しずつ慣れてきている。 ○様々な教科でタブレットを活用したため、操作や入力に慣れ、以前より短い時間でできるようになってきた。 △一方で、調べるためのキーワードや調べた内容から必要な情報を選択・精選することができない児童もいる。何を伝えたいのか明確にしながら、短い言葉でまとめる練習を、他教科でも重ねる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく知る英単語や表現に関心をもち、毎時間の外国語活動を楽しみにしている児童が多い。 ・リスニングに苦手意識をもっている児童が 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きALTと連携しながら、児童が楽しく学習できるようなゲームやアクティビティを適宜取り入れる。 ・英語の聴き取りに自信がない児童には、日本語で内容を 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌やチャンツで反復練習を重ね、学んだことを基にゲームやアクティビティに取り組んだため、以前より自信をもって発音できる児童が増えた。

	<p>見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングに自信がない児童が見られる。 	<p>伝えながら支援する。聴き取りができた時には大いに褒めて、次につながるように声を掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまずきが見られる発音や英単語は、ALTの口の形や舌の動きに注目させ、重点的に練習を行う。また、歌やゲームを意図的に取り入れ、楽しみながら習得できるようにする。 	<p>○紛らわしい発音や聴き取りにくい長文なども多々あったが、ALTの口元に注目し、何度も発音の練習をすることで、苦手意識も少しずつ減っている。</p> <p>△アルファベットの文字を書く活動が入ってきたので、苦手意識を感じる児童が出てきた。ビンゴなどのゲームやアルファベット探しなどをして、楽しみながら習得できるようにする。</p>
--	--	--	---